

2年1組

 2年1組 畑名人の道  
 ～受け継ごう つねこおばあちゃんの畑～


## 「ぼくたちで受け継ごうよ！つねこおばあちゃんの畑」

1組の子どもたちが昨年から通い続けている水内坐一元神社。みんなで参りした後、神社で鬼ごっこをしたり、秘密基地をつくって遊んだり、虫を捕まえたりとそれぞれがしたいことを夢中になって過ごせる時間。神社で過ごす時間は、子どもたちにとってまるで異世界の空間にきているかのよう。さらに、神社の向かい側の畦道を歩いた先にある野原。クローバーとた



んぱぱが一面に広がる野原で、裸足で駆けまわったり、時にはごろんと寝転がってお昼寝したり、思う存分季節を感じ、味わう子どもたちの姿があります。



4月中旬のある日、「神社のとなりにある畑さ、去年大根をくれた100歳になるつねこおばあちゃん、今年はもう畑できないんだって…。」Iさんがどこからか情報を得てきました。その話を聞いたFさんは、「つごうよ。ぼくたちがつねこおばあちゃんの畑の2世紀目になろうよ」そうみんなに語ってくれました。「いいね！やりたい！！」クラスみんなが賛同し、つ

ねこおばあちゃんの畑を受け継ぐ計画がスタートしました。さっそく、つねこおばあちゃんに畑を貸してもらえないかと連絡したところ、つねこおばあちゃんの畑は、夢ファームこじまの奥山さんという、今年度の神社の総代さんが管理されていることが分かりました。居ても立っても居られない子どもたちは、奥山さんに会いに夢ファームこじまへ。ちょうど作業を終えて戻ってきた奥山さんにTさんが先頭に立ち、「ぼくたちにつねこおばあちゃんの畑を継がせてください！お願いします」と勢いよく頭を下げてお願いをしたのです。奥山さんは「あ～いいよ。みんなで畑しっかり守ってな。草だけは生やさないようにするんだよ」と快く引き受けてくださいました。「つねこおばあちゃんに美味しい大根をつくってあげよ

う！」そう意気込んだ子どもたちでした。しかし、Rさんが「でも、わたしたち畑やったことないからさ、できるかな？」そう不安な気持ちをみんなに話してくれました。「じゃあさ、学級園で、野菜をつくるための練習をしてさ、畑名人になって、つねこおばあちゃんの畑で野菜を作ろうよ！」Nさんがみんなに向かって語り掛けてくれたのです。それからというもの、子どもたちは学級園の硬い土と向き合う日々が始まりました。「はたけの土ってさ、もっと雲みたいにふわふわしてるはずだよ」とMさんが話しました。「どうしたら、畑の土のようにフワフワの雲のような土になるのだろう？」



深く掘ったり、水を撒いてみたり、ふるいにかけてさらさらにしてみたりと試行錯誤しながら雲の土づくりに励む子どもたち。そして、苦勞して開墾した畑に、いよいよ野菜を植えることになりました。「私はきゅうりを植えたい」「ぼくはスイカがいい」子どもたちは自分が育てたい野菜を畑で育てることにしました。実際にお店に行って一人一人が苗を自分の目で見、「これだ！」と思う野菜の苗を買いました。中には、種から育てたいという子もいました。





## 「大きくおいしくなあれ、私の野菜」

子どもたちは、苗や種に願いを込めながら植えました。その日からの子どもたちは、「先生おはよう！！畑行ってくる～」と毎朝、自分の野菜の生長を確認しに、畑に通いました。中には、電車から降りてすぐに畑に行き、水やりをしに行く子も。「今日は土が固くなったから、お水いっぱいあげてきた～」と語るKさん。「ついに芽が出たよ！かわいい～。名前はおくちゃんにしようかな？」と意気揚々と話すNさん。わたしが育てたい野菜を苗や種から育てはじめた子どもたちは、日々の生長が嬉しくてたまらない様子でした。朝の教室は空っぽ状態。まさに私たちの畑は、生活の一部になっていきました。お世話をしていく中で、果実が虫に食べられてしまうこと、葉っぱの色が変わってしまうこと、自分の植物だけ生長が遅いこと等、問題が多々出てきました。それでも子どもたちは、図書館の本で知らべたり、おじいちゃんやおばあちゃんに聞いたり、クロームブックを使って生長の様子を写真に撮りながら観察していったりと、自分の野菜をおいしく実らせるためにあの手、この手を駆使してお世話をしました。



そして、この夏を迎え、畑にはたくさんの野菜が実りました。いよいよ収穫の時期です。きゅうりやミニトマト、なす、ピーマンなど色とりどりの野菜たちをニコニコしながら収穫する子どもたち。取れたきゅうりをそのままガブリとかぶりつくRさん。「おいし～～」と満面の笑みを浮かべながら食べていました。Yさんは「自分で愛情いっぱい育てたから余計においしい」と語ってくれました。4月から、毎日欠かさず愛情という栄養をたっぷりもらった野菜たちは立派においしく生長しました。



畑名人に一步近づいた子どもたち、いよいよ夏休み明けからは、つねこおばあちゃんの畑で大根を育てます。つねこおばあちゃんに喜んでもらえる大根づくりを目指して、子どもたちの畑名人の道はまだまだ続きます。

さあ、次は神社の畑だ～!!

